

## 令和2年度 第2回宇治市男女共同参画審議会の会議録（要約版）

日時	令和2年10月29日（木）午前10時～12時
場所	男女共同参画支援センター会議室
出席委員	桂会長、居原田委員、中本委員、西村委員、長谷川委員、日野委員
事務局	福井人権環境部長、前田環境部副部長、柏木男女共同参画課課長 二木男女共同参画課主幹、山田男女共同参画課専門員
議題	<報告事項> ・令和元年度宇治市男女共同参画計画（第4次U J I あさぎりプラン） 実施状況調査結果及び令和2年度実施計画について <審議事項> ・宇治市男女共同参画計画（第5次U J I あさぎりプラン）初案について
傍聴者	3名

### 会議経過及び内容

1. 部長あいさつ
2. 会長あいさつ
3. 議事

〈令和元年度宇治市男女共同参画計画（第4次U J I あさぎりプラン）実施状況調査結果及び令和2年度実施計画について〉

事務局から議事内容を説明し、委員から次のとおり意見が出された。

#### 主な意見

- 12 ページ。消防の女性職員採用数の個別事業評価が×になっているのはどうしてか。

⇒昨年は女性の応募者がなかったと聞いている。様々な広報活動をされており、今年は4人の応募があり、2人が試験を受けたと聞いている。

〈宇治市男女共同参画計画（第5次U J I あさぎりプラン）初案について〉

事務局から議事内容を説明し、委員から次のとおり意見が出された。意見を受けて初案を会長と調整のうえ修正することとした。

#### 主な意見

- 説明の補足として、56 ページの目標値としていた7つの項目で今回目標値としなかった。前回も話題になっていたと思うが、社会通念上で男女平等と感じている人が多ければ良いのかということ、期待水準が低い人は十分平等と感じるなど、実態が進んでいるとはいえないのではないかとということもあり、目標値とは違うところで改善されているかを見ていくべきで、外した方がいいのではな

いかということであった。相談件数についても、増えたら良いのか、減ったら良いのかという問題もある。今回の変更は英断だと考える。機械的に決めるよりはこの方が良いと考えた。

- 今日議論をして確定するのか。

⇒初案であるため、この後パブリックコメントで市民からの意見を受け、審議会での最終審議を行う。

- 36 ページ。「女性のエンパワーメント」。他では「エンパワメント」と表現をしており、ここだけ「一」があるので統一した方がよい。また、55 ページ。基本方向 2 の枠外の※が表内の※ 1、※ 2 と混同する。どこの解説かわかりづらい。56 ページの基本方向 4 の枠外は「デートDVの認識度」と※なしで書かれているので統一した方がよい。

⇒統一する。

- 男女共同参画課ではさまざまな相談を受けていると思うが、コロナ禍で今までにないような相談事例が出ていると思う。その中身を反映させることはできないか。DVが増えているなど、聞いている事例があれば示してほしい。

- コロナによって困難を抱えた方も多いと思うが、具体的な事例は出しにくいと思う。相談の傾向や問題点をつかんでいたら、連動すればより有効な相談事業となると思われる。

⇒コロナで具体的なDV相談が増えたということはなかったが、家庭内別居だが給付金はもらえないのかという相談が数件あった。根本には、性別役割、分業意識が常に女性の相談にかかわっていることが多い。

⇒コロナ禍に着目した新たな施策として、DVを受けている人はなかなか一歩が踏み出しにくいということを考慮し、電話相談を増やしたり、オンラインによる相談を実施することとした。困難を抱えている女性に少しでも対応できるように相談の手法を増やしている。それをどのように計画に落とし込んだらよいか。45 ページの相談体制と被害者支援の充実や、23 ページの推進施策②「『女性のための相談』や『男性のための相談』等相談窓口の周知拡大を図るとともに、多様な相談方法の実施による利便性の向上を図ります」という背景には、コロナの影響もある。家庭内における暴力が潜在的にあるということで、現状と課題のところに「コロナからみえる」と表現するのがよいのではないかと考える。

- これまでにない状況になったので、何らかの文言を入れ込むということか。

⇒43 ページの「現状と課題」に「コロナによって新たに懸念されることがある」と追加してはどうかと考えている。

- 相談方法の多様化とは具体的にどのようにするのか。

⇒ZOOMによるオンライン相談を11月から始める予定である。

相談している声が漏れないよう、イヤホンを使って対応してもらうことや、家に誰もいない状況など、安全にZOOMで相談ができる方法をカウンセラーと相談しているところである。

- 感染拡大でZOOMの活用が増えている。ZOOMで会議をする場合、装置はどうするのか。

⇒パソコンまたはスマホでZOOMをダウンロードしてもらってあれば、こちらからURLを送るとクリックしてもらっただけでつながる。ZOOMはこちらの費用負担になる。相談者には通信料が発生する。電話の場合は通話料がかかる。どこでもできる手軽さはあるが、通信セキュリティの安全性を確認したうえで、事前に1回来所してもらって話をし、ZOOMの方が安心だという担保がとれたら利用してもらうことで話を進めている。

- メール相談を想像していた。ZOOMは通信環境があればできる。相談手法は、今までは来所して面談か電話だった。新しいツールを使うとよいこともある。何かアイデアがあれば教えてほしい。

(欠席委員からの意見)

- 11 ページ。基本方向3ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和の推進）。4行目の「育児、介護を支援する対策を講じている事業所の割合が大幅に増加し、目標を達成しています。」という部分が、9ページの修正により合わなくなっている。「育児、介護を支援する対策を講じている事業書の割合が増加していますが、今後さらに取り組みが必要です。」とする方がよい。

- 20 ページ（3）男性の家事・育児・介護等への参画。一番下の、男性が「家事や介護、育児に関わることができる条件整備が必要です。」の条件整備がわかりにくいので、「男性が家事や介護、育児に関わることができるよう支援する取り組みが必要です。」としてはどうか。

- 21 ページ。現状と課題。下から2つ目の□「また、変化の大きな時代においては」のところに、「また、新型コロナウイルス感染拡大の影響など、変化の大きな時代においては」としてはどうか。

- 29 ページ。現状と課題。一番初めの□の2行目「女性の職業生活のための政策を進めています。その結果、全国的な傾向と同様、本市においても20歳代後半から30歳代女性の労働力率は大きく上昇しています。」という部分は、国の政策の結果だけではなく、働かざるを得ない経済的な状況などもあると思われるため、「女性の職業生活のための政策を進めています。その結果や、経済的な理由等から、全国的な傾向と同様、本市においても・・・」としてはどうか。

- 46 ページ。現状と課題。一番初めの□の2行目の最後「貧困等の生活上の困難に陥りやすいと言われています。」は、「陥りやすい傾向があります。」とする方がよいのではないか。

●51 ページ。具体的施策の一番下、机上訓練はどういうものかわからないので、注釈をつける方がよい、という意見があった。

⇒委員がよく知っておられるので、紹介をお願いしたい。

●HUGは避難所運営のためのカードを使ったゲーム形式の方法。机の上を避難所と仮定する。どこにトイレを設置するか等課題がいっぱいあり、いろいろな条件の人が次々とやってきて、そのカードに対してどのような対応をするか、どの人を体育館のどの場所に避難してもらうかという設定をどんどん考えるゲームである。一度やったが、いろいろな問題があり、難しく一度やっただけでは分からないと思う。ぜひ皆さんも一度体験してほしい。

●それはどういうところで実施されているのか。

●市役所や京都府内での研修の機会に実施している。やってみるといろいろな問題が分かる。重要なゲームである。

●担当課が危機管理室となっている。

⇒宇治市では危機管理室である。訓練はいろいろな訓練があり、HUGはその一つなので、「机上」の言葉を取って表現を改めたい。

●3つ教えていただきたい。最近、芸能人の自殺が多い。第一線で活躍され、将来も期待されている人が自ら命を落とす事件を見ていて、私達が気づいていないところで何かが起こっているのではないかと不安を感じている人もいると思う。表面に出てこないのが難しい問題だが、どうすればキャッチできるのかを人権分野としてしっかり取り組んでもらいたい。突き詰めていくと、今は人の命がすごく軽く感じられているのではないかと思う。命の尊さ、尊厳といった価値観が変わってきているのかと思う。そういうものがDVにつながるし、根っこの部分の教育が改めて大事だと思う。いろいろな教育の場面で取り組みをされているとは思いますが、改めて一人ひとりの尊さ、大事な存在なんだということをみんなが認識できるような仕組みや教育が必要と感じた。

2点目は、自分自身もここからチャレンジ相談に通っていたことがある。自分が「何が大事なのか」を再確認するいい場所になっており、感謝している。35 ページの「女性のチャレンジ支援」の最後の文章がすばらしいと思う。「新型コロナウイルスによる感染症の拡大の中で、リモートワークが広がるなど、働き方はますます多様化する傾向です。女性の就労や起業、ローカルビジネスなど多様な働き方を促進するために、これまでの取り組みの充実とともに資金面の支援や経営の知識、人的ネットワークなど様々なスタートアップ支援が必要です。」本当にその通りだと思うが、ここは「スタートアップ」が特に強調されているような気がした。その後の継続的な支援を実際にやっ

ていく中で、言葉としてあった方がよい。

最後は、今年度はコロナの影響でどの事業も中止になり、あさぎりフェスティバルの中止はやむを得ず、イベントが開催しにくい中で、形を変えることを考えていかれると思うが、女性のつながりの場を続けて持ってほしい。

⇒1つ目について。自殺対策は、48ページの下から2つ目に文章を入れている。また、49ページの一番下の「自殺に関する啓発を推進するとともにゲートキーパーの養成を強化します」は、自殺対策の担当課が地域福祉課であり、様々な人を養成していきたいと聞いている。毎年、当課と一緒に自殺対策の取り組みを行っている。

⇒2つ目について。ここからチャレンジでは継続的な支援をしている。就労の場面の支援が少ないと考えているので、まずは就労、起業したい人への支援を行う。就労している人等へのエンパワメント支援は継続してやっているが、継続的な支援は今後の検討課題だと思う。計画にどう反映するかは検討する。

- ここでスタートアップ支援した人を産業支援課との連携でつないだら、商工会議所とも協力できると思うので、連携を図っていただけたらありがたい。

⇒連携を図っていきたい。

- 継続支援は重要だと思うが、書いてはいけないのか。

⇒スタートアップが強調されているという印象だということなので、「様々な支援」などで幅を広げるか。継続的な相談はやっているなので、文言を検討する。

自殺対策についても、どこまで記載するかはあるが、昨年初めて自殺対策の計画を策定して、今まで以上の連携は図っている。実際に相談を受けたこともある。そうしたことは引き続きやっていく。言葉にすると「関係機関との連携」となるが、それは重みのある内容である。今はどう言葉を加えるか浮かばないが、考えたい。

- 「ゲートキーパーの養成を強化します」とは、既に実施しているものを強化するということか。

⇒民生委員や管理職を対象にするなど、具体的な計画をたてて研修を行っている。

- 23ページ。SNSでの攻撃が話題になっている。「メディアリテラシー」のところにICTとか読み取る力も必要かと、今の自殺対策を聞いて思った。

⇒当初ICTを入れていたが、担当課との調整で削除した。広い意味ではICT教育をやっているが、男女共同参画としての取り組みは難しいということもあった。ICTという表現の方が分かりやすいのであれば再検討する。

- 分かりやすいかどうか分からないが、IT教育はパソコンの利用方法だけでなく、何気ない書き込みが人を傷つけたり、拡散されてしまうということが、本や話をするのとは考え方がまったく違うので、利用する上での考え方を発信していくのは必要だと思う。  
⇒小中学校ではそういったことを含め、スマホ教室等インターネットの使い方に関する教育に取り組んでいる。23ページの具体的施策に含まれる。
- 48 ページ。今の自殺のところ、「自殺に関する啓発」は自殺を進めているようにも読み取れる。「自殺予防」の方が適切ではないか。
- 可能であればお願いしたい。SDGsの読み方を入れてほしい。また、DVにドメスティック・バイオレンスと書いてあるように、SDGsも何の略かを載せてほしい。  
⇒変更を検討する。
- 用語解説は、この素案と一緒につける予定か。  
⇒最終的には第4次プランと同様に本文中に記載する予定である。
- 言葉が本文に登場すると、その位置の下に注釈として載せるのか。  
⇒そのように考えている。
- 48 ページの女性のがん検診受診率のグラフが出ているが。他にふさわしいグラフはないのか。どう努力をしていけばいいのか分かりにくい。むしろ自殺を未然に防ぐような啓発をうたっているのであれば、その方がよいと思う。現状と課題の下には根拠となる統計を出すことになっていると思う。  
⇒必ずしもそうはなっていないため、グラフを取ってしまっても良いかもしれない。48ページの女性のがん検診の図は削除する。何かよい指標があれば掲載したい。  
⇒自殺に関して、宇治市で持っている指標もあるが、それを載せるかどうかは検討する。何か入れられるものがあればわかりやすいと思うので、一緒に考えていただきたい。
- 取り組みにつながる根拠となるものがあるとよい。  
⇒自殺統計は、宇治市の計画に掲載されているので考えたい。
- 体裁としては、用語解説を下に入れる。基本的な作りに関しては、この形でいくということでしょうか。  
⇒編集段階でレイアウトが変わるので、何か意見があれば出してほしい。
- 見やすいものがよい。工夫してもらっているが、全体の構成がわかりやすい方がよい。
- 31 ページに「京の農林女子ネットワーク」について書かれているが、注釈はこの形でも入るのか。

第4次のように分かりやすく入っているとよい。

⇒キーワードが出てきたページに記載する方向で統一した形で解説を入れる。

⇒先ほどの委員の意見を受けて、36ページの具体的施策32の一番下の部分に「産業振興課」を加える方向で調整したい。

⇒目標・指標項目を設定した。特に審議会の委員数などは国の計画を参考にしながら設定している。国の第5次計画ではまだ目標・指標項目公表されていないので、それが出てきたら数値を変更する可能性がある。

●国はこれよりも高いのか。

⇒今よりは数値を上げてくるのではないかと思う。ただ、審議会の委員の率は、今のところ国は30%。国が35%以上になると、本市ももう少し上げる必要がある。

### 3. その他

今後のスケジュールについて

今回の審議会での意見を反映して会長と調整のうえ初案を作成し、11月19日に市民環境常任委員会でこの件を報告する。パブリックコメント（1ヶ月）の後、市民の意見をとりまとめ、1月に最終審議のうえ答申。2月に市民環境常任委員会に報告して3月に公表する。

事務局：せっかくの機会なので、何か伝えたいことがあれば。

委員：この前、宇治橋通り商店街でニコパンマーケットという催しがあった。若い女性達がたくさん参加していた。出店している女性も多く、こうした女性の力がもっと地域で活かされるとよい。